

ソーシャルスキルトレーニングVR



User's
Voice
vol.11



FACE DUO



当院について

患者さんのパーソナルリカバリーを第一に

当院は、患者さんが様々な疾患を抱えながらも、自分らしく、いきいきと生きていけるよう、パーソナルリカバリーを目指しています。そのため外来だけでなく、大規模デイケアすずかけの郷、就労継続支援事業所B型寸心(すんしん)・imago、訪問看護ステーションHOPEといった、社会生活をサポートする様々な施設を併設しています。さらに、法人内には相談支援やグループホーム、ショートステイなど地域生活を支援するメンタルヘルスサポートセンターを有しており、多様な側面から患者さんのパーソナルリカバリーを進めています。また、当院は多くの統合失調症患者さんやてんかん患者さんが利用しています。患者さんたちは、社会で生きて行く中で、様々な困難を抱えています。様々な場面をFACEDUOで体験し、実践することで、社会で生活していくうえで必要なスキルを身に付けています。



院長 福智 寿彦 先生

導入のきっかけ

患者さんの社会参加を進めるために

外来の患者さんは社会で生活している人が主流であるため、社会生活を営んでいくためには、入院でのSSTよりも更に高度な内容を扱う必要があります。しかし、SSTを自分で実施することは難しく、一緒に働くスタッフが実施できればという思いがありました。

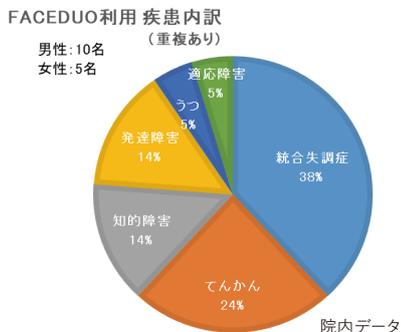
そんな時に、FACEDUOは、就労に向けたトレーニングや、社会の中で暮らしていくのに必要な技術を扱っていること、さらにはそれをVRで体験できることに興味を惹かれました。そして、患者さんの社会生活に役立つだけでなく、スタッフがSSTについて知り、勉強するにも良い教材であると感じました。

当施設で活用してみても

VR映像で情報の共有がスムーズ

統合失調症やてんかんの患者さんの認知機能の低下を防止するのに役立つと考えています。日常生活や仕事の場面でVRで疑似体験することにより、実生活で実践する前にトレーニングできるところがFACEDUOの強みだと思います。また、ロールプレイングでは再現しきれない部分も再現できる点や、スタッフの技量によらず均一に実施できる点も良いと思いました。

また、FACEDUOは視覚的に状況が共有できるのでわかりやすく、発達障害や知的障害を持っている方でも集中して取り組むことができます。



当施設での活用事例

実際の就労場面に活かす

B型作業所である寸心(ケーキ屋)でもimago(ジャズバー)でも、お客さんの注文を聞き取る場面は多くあり、現場にいかせると感じて実施しました。また、就労していないメンバーに接客場面を体験してもらうことで、「寸心やimagoの仕事が自分にもできるかも」と自信をつけてもらう狙いもあります。安心して実践できるVRによって自己肯定感を身に付けてもらえたらと思っています。



利用者の声

- 困った状況で自分達だけで話し合っていたら出なかったかもしれない。改善点を示してもらえるのが良かった。
- いつものSSTだと状況がわからない事があるが、FACEDUOは映像でわかりやすい。
- FACEDUOで学んだことが、日常生活でも活かせると感じた。



今後の展開

就労を進めて行くために必要なツール

VRコンテンツの仕事編に期待を寄せています。当院のB型作業所ではお客様との関わりが多いのが特徴です。FACEDUOには、接客での困りごとを扱っているテーマもあり、実践に活かしやすいと感じています。また、当院の方針として、デイケア利用中の患者さんや、引きこもりになってしまっている患者さんの就労を進めていきたいという思いがあります。そういった方をいきなり実践の場に連れていくことは難しいです。そこで、今後の展開として、FACEDUOの仕事編を体験してもらい、就労に繋げていけたらと考えています。

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!